

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：商工会議所事業補助金額	指標の求め方：補助金額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：商工会議所会員数	指標の求め方：商工会議所の各年度末の会員数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 6,250	6,250	6,250		6,250	6,250	6,250		6,250	6,250	6,250	6,250	
		実績値 5,828	6,459	7,155										
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値 360	360	360		360	360	360		360	360	360	360	
		実績値 380	375	362										
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
	総合評価				普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響による市民祭り中止に伴い露店受入協議会補助及び中小企業相談所事業の人員費・事業費補助の減があったものの各種給付金申請のサポート業務等の効果により会員数の増に繋がった。	自己分析： 中小企業相談所事業の人員費・事業費補助が予算額と比較し減となったものの、必要な額を補助しており活動指標を達成した。また、廃業・移転等により会員数が微減となった。	自己分析： 中小企業相談所事業の人員費が予算額と比較し減となったものの、必要な額を補助しており活動指標を達成した。また、廃業等により会員数が微減となった。	判断理由： 成果指標である会員数は微減であるがほぼ変わらず、活動指標である補助金額については、必要な額を補助しており達成はされているため、普通であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性				現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 商工会議所の補助については、経営相談業務をはじめとし、市内中小企業に対する支援を行っており、市内中小企業の経営安定に寄与していることから、今後も支援を継続していきたい。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：受講者数	指標の求め方：受講者数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：新規受講事業者数	指標の求め方：初めて受講した事業者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	5 3	5 11	5 12		5 5	5 5	5 5		5 5	5 5	5 5	5 5		
	成果指標 1 (単位/社)	計画値 実績値	1 1	1 1	1 2		1 1	1 1	1 1		1 1	1 1	1 1	1 1		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新規受講事業者が1者あったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた受講の中止などがあり、受講者数が計画値を下回った。	自己分析： 新規受講事業者が1者あり、受講者数も計画値を上回ったが、今後とも各事業所への周知・受講促進を図る。	自己分析： 新規受講事業者が2者あり、受講者数も計画値を上回ったが、今後とも各事業所への周知・受講促進を図る。	判断理由： 活動指標、成果指標共に概ね達成しており、事業者からのニーズには応えられていることから、良好であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 市内中小企業経営者及び従業員の研修環境を整備し、有能な人材を確保・育成することにより経営の安定化を図ることは重要であり、今後も事業を継続していきたい。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：新規融資実行件数	指標の求め方：新規融資実行件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：新規融資金額	指標の求め方：新規融資金額

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	27 17	27 22	27 12		27	27	27		27	27	27	27		
	成果指標 1 (単位/千円)	計画値 実績値	163,280 76,170	163,280 125,490	163,280 57,580		163,280	163,280	163,280		163,280	163,280	163,280	163,280		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、当面の運転資金としての融資のニーズがあったものの、設備資金の新規利用は2件にとどまり、計画値を下回った。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値を下回ったものの、これまで新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向にあった設備投資のための資金利用が増加している。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたため、新型コロナウイルス対策分の新規受付を令和5年度末をもって終了した。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により設備資金の利用が少なく活動指標・成果指標ともに計画値を下回ったものの、運転資金・設備資金ともに利用が回復傾向にあるため、普通と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 本事業は市内事業者の経営の安定と生産性の向上に必要な事業であることから、今後も継続していきたい。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：商業街路灯管理本数	指標の求め方：商業街路灯管理本数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：SuBACo来館者数	指標の求め方：SuBACo来館者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	111 111	111 111	111 111		111 111	111 111	111 111		111 111	111 111	111 111	111 111		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	1,857 625	1,857 427	1,857 535		1,857 625	1,857 427	1,857 535		1,857 625	1,857 427	1,857 535	1,857 535		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 助成件数は計画通り執行している。SuBACo来館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館や外出自粛等により計画値を大きく下回っている。本事業は廃止すると通行に支障が出ることから、必要があると考える。	自己分析： 助成件数は計画通り執行している。SuBACoは、令和4年度より駅前施設整備のため観光協会隣に移転した。SuBACo内でのイベント開催が困難となったため来館者数が計画値を大きく下回る結果となったが、本事業は廃止すると通行に支障が出ることから、必要があると考える。	自己分析： 助成件数は計画通り執行している。SuBACoは令和4年度より駅前施設整備のため観光協会隣に移転しており、SuBACo内でのイベント開催が困難となったため、来館者数が計画値を大きく下回る結果となったが、本事業は廃止すると通行に支障が出ることから、必要があると考える。	判断理由： 事業は達成されており、商業街路灯の維持により商店街利用者の利便性、安全性確保が保たれているが、成果指標であるSuBACoの来館者数が減少していることから、総合的には普通であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 商店街利用者の利便性・安全性の確保の観点から商業街路灯の維持は不可欠である。電気料金の高騰・事業者の廃業等により電気代の負担が増大していることもあり、補助事業を廃止すると商業街路灯の維持が困難となる場合が想定されるため、現状のまま継続とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：無電柱化工事対象街路灯	指標の求め方：無電柱化工事対象街路灯本数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：SuBACo来館者数	指標の求め方：SuBACo来館者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 実績値	14 14	10 6	4 4											
	成果指標 1 (単位/人/年間)	計画値 実績値	1,857 625	1,857 427	1,857 535											
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 対象街路灯については計画どおり工事が進められている。SuBACo来館者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館や外出自粛等により計画値を大きく下回っているが、本事業は令和4年度の完了に向けて工事を進めていることから継続して行っていくこととする。	自己分析： 令和4年度に工事が完了する予定であったが、国直轄工事に遅れが生じたため、商業街路灯4基の工事が令和5年度に繰越となった。活動指標・成果指標ともに計画値を下回っているが、完了に向けて工事を進めていることから継続して行っていくこととする。	自己分析： 令和5年度に繰越となっていた商業街路灯4基の無電柱化工事が終了し、本事業が完了した。	判断理由： 令和4年度の工事完了は国直轄工事に遅れが生じ、令和5年度に繰越となったため、活動指標が達成されなかった。成果指標も計画値を大きく下回っているが、令和5年度の完了に向けて工事を進めていることから、総合的には普通であると判断する。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					完了											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 当初の工事完了予定である令和4年度からは遅れが生じているものの、令和5年度をもって商業街路灯の無電柱化工事の完了が予定されていることから、本事業も完了とする。 また、国道の無電柱化工事も令和6年度の抜柱工事をもって完了することが予定されている。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 中小企業等振興補助金助成件数	指標の求め方: 中小企業等振興補助金助成件数 (小売り商業店舗等の新築費、改装費、賃借料)
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 市内空き店舗の数	指標の求め方: 市内空き店舗の数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	3 5	3 3	3 8		3 3	3 3	3 3		3 3	3 3	3 3	3 3		
	成果指標 1 (単位/店舗数)	計画値 実績値	31 32	31 32	31 32		31 31	31 31	31 31		31 31	31 31	31 31	31 31		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 新規出店に伴い補助金助成件数が計画値を上回っている。廃業などにより空き店舗数は増加しており、現状のまま使用可能な店舗が少ないのが実態である。本事業については中心市街地の活性化に寄与していることから、継続の必要があると考える。	自己分析: 新規出店があったことから助成件数は計画値を達成している。廃業により空き店舗が増加している一方、老朽化により取り壊される物件も増加していることから、空き店舗数の減少はなかった。本事業については商店街の活性化および創業支援の観点から継続の必要があると考える。	自己分析: 新規出店が多くあったことから助成件数は計画値を上回っている。廃業などにより空き店舗は増加している一方、老朽化により使用不能な物件や取り壊される物件が増加していることから、空き店舗数の増減はなかった。本事業については商店街の活性化および創業支援の観点から継続の必要があると考える。	判断理由: 活動指標である助成件数は計画値を達成しているが、成果指標である市内空き店舗の数は新規出店があるものの廃業等により減少していないことから、普通であると判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 例年、複数の事業者が本事業を活用し新規出店を行っており、空き建築物の解消につながっている。一方、既存の空き店舗の老朽化により改装が必要な物件も多数存在する。市内の空き店舗、空き地の解消に民間活力を支援する本事業は有効であることから、今後も新規出店・商店街の活性化を促進するため本事業を継続していきたい。					R8:					R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 中小企業等振興補助金額	指標の求め方: 中小企業等振興補助金(商店街活性化事業)助成額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 砂川商店会連合会会員数	指標の求め方: 砂川商店会連合会会員数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 729	実績値 0	729	154	320	320	320	320	320	320	320	320	
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 77	実績値 80	77	75	77	77	77	77	77	77	77	77	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない									
	総合評価				普通である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 新型コロナウイルス感染症拡大防止により全てのイベントが中止となった。	自己分析: 新型コロナウイルス感染症拡大防止により全てのイベントが中止となった。	自己分析: これまで補助を行っていた中央商店街盆踊り大会およびあさひサマーフェスティバルが中止となり、お祭り広場も規模を縮小し開催したため、活動指標の計画値を下回った。	判断理由: 令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止となり活動指標を達成できていない。この間、事業所数の減少・イベント主催者の高齢化により開催が困難となったイベントがある一方、成果指標である砂川連加盟店舗数は横ばいであることから普通であると判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:
今後の方向性				手段の見直し										
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5: 令和2年度から事業にかかる諸経費の高騰を理由に補助上限額を32万円に増額したが、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止となっていた。新型コロナウイルス感染症が5類となりイベントの実施が可能となったが、この間事業所数の減少・イベント主催者の高齢化等により、「あさひサマーフェスティバル」が中止、「中央商店街盆踊り大会」も商店街として開催できなくなり、令和5年度に砂川納涼盆踊り大会実行委員会が新たに盆踊り大会を実施した。「砂川お祭り広場」は令和5年を最後に終了とし、令和6年以降は新たな形でイベントの企画を予定している。いずれも商店街単位でのイベント開催が困難となってきたことから、中小企業者及び商店街団体等の実情を聞き取り、自立して活性化に取り組むことができるよう新たな支援策を検討する必要がある。				R8:				R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: SuBACo来館者数	指標の求め方: SuBACo来館者数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 電動自転車貸出数	指標の求め方: 電動自転車貸出数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	1,860 625	1,860 427	1,860 535		1,860	1,860	1,860		1,860	1,860	1,860	1,860	
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	160 50	160 89	160 152		160	160	160		160	160	160	160	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されていない									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない									
	総合評価					問題がある									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: SuBACo来館者数及び電動自転車貸出し数は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館や外出自粛等により計画値を大きく下回っているが、商工振興・観光の両面から効果が見込まれるため事業の継続が必要であると考える。	自己分析: 駅前地区整備のためSuBACoが観光協会が入居する建物内に移転し、SuBACo内での催しなどが困難となったことから、来館者が減少し、計画値を大きく下回った。また、電動自転車貸出数はコロナ禍に比べ回復はしたものの計画値を大きく下回った。	自己分析: 活動指標は昨年度と比較して増加したものの、SuBACo内での催しから計画値を下回った。また、成果指標は地域おこし協力隊によるSNSでの周知等により増加傾向にある。	判断理由: コロナ禍での休館や外出自粛のほか、SuBACoの移転により催しが困難となったことから、活動指標・成果指標とも計画値を大きく下回った。駅前施設完成後のSuBACoの役割や商店街情報の発信方法など検討の必要があることから問題があると判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性					手段の見直し										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 駅前地区整備による移転に伴い、当初広いスペースで行っていたショップカード等広告媒体の設置・事業の開催などが困難となったため、現在はSNSによる情報発信を主に行っている。まちなかの賑わい創出のため情報発信・商店街への回遊促進は継続して行っていく必要があるが、駅前施設完成後のSuBACoの役割やその方策については改めて検討の必要がある。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: ワンストップ窓口の相談件数	指標の求め方: ワンストップ窓口の相談件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 創業支援事業等に基づく新規創業件数及び事業承継件数	指標の求め方: 創業支援事業等に基づく新規創業件数及び事業承継件数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	8 12	8 8	8 6	8	8	8	8	8	8	8	8	8		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	2 5	2 6	3 2	3	4	4	4	4	5	5	6			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 相談件数・新規創業件数・事業承継件数ともに計画値を上回っている。新たに創業を目指す方が増えてきており、それに伴い各種補助金や空き店舗に関する相談が多くなっている。	自己分析: 相談件数・新規創業件数ともに計画値を達成している。ワンストップ相談窓口の設置や創業セミナーの開催のほか、よろず支援拠点の出張相談会の実施等につながった。	自己分析: 活動指標・成果指標ともに計画値を下回ったものの、補助金や空き店舗情報の発信などにより創業者が生まれ、地域経済の活性化につながっている。	判断理由: ワンストップ窓口の相談件数も計画値以上に推移し、創業件数も増加していることから良好であると判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5: ワンストップ相談窓口設置や創業セミナーの実施により、新規創業者が増加している。また、地域おこし協力隊起業又は事業承継支援補助金は協力隊卒業後の定住につながっている。空き店舗の解消と地域経済の活性化につながっているため、現状のまま継続することとしたい。				R8:				R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：補助金額				指標の求め方：補助金額									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：施設新設等を行った企業の新規雇用者数				指標の求め方：新規雇用にかかる助成を行った人数									
		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 15,000	15,000	15,000		15,000	15,000	15,000		15,000	15,000	15,000	15,000		
		実績値 150,254	1,908	32,253											
指標	成果指標 1 (単位/人)	計画値 3	3	3		3	3	3		3	3	3	3		
		実績値 0	0	0											
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：今年度の補助内容は、税額補助（2年目及び4年目）に加え、既存企業の工場増設に伴う施設建設補助をおこなったことから、企業振興が図られたものと考えられる。	自己分析：新たな設備投資はなかったものの、税額補助（2年目、3年目及び5年目）をおこなったことから、企業振興が図られたものと考えられる。	自己分析：今年度の補助内容は、税額補助（3年目及び4年目）に加え、既存企業の工場増設に伴う施設建設補助をおこなったことから、企業振興が図られたものと考えられる。	判断理由：活動指標は計画値を上回ったものの、成果指標は計画値を下回った。事業目的を考えると良好であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5：現条例で受けられる税額補助の適用となる企業があるため、現状のまま継続と判断した。令和6年3月末で現条例が失効するため、現在の情勢及び企業がおかれている環境やニーズ等加味した条例改正を行う必要がある。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：会員数	指標の求め方：東京砂川会事業年度である10月1日現在の会員数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市の発展に繋がる情報提供数	指標の求め方：東京砂川会会員による情報提供数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	160 126	170 117	180 96		190 200	210		220 230	240	250			
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	1 0	1 0	1 0		1 1	1		1 1	1	1			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない										
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：会員の高齢化により、退会者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響で、総会の開催を中止したこともあり、新会員の加入促進を図ることができなかったが、会報の発行等を通して、砂川市の情報発信に努めた。	自己分析：会員の高齢化もあり、退会者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響で、総会の開催を中止したこともあり、新会員の加入促進を図ることができなかったが、会報の発行等を通して、砂川市の情報発信に努めた。	自己分析：会員の高齢化により、退会者が24人と多かった。新型コロナウイルス感染症の影響で延期していた総会を5年ぶりに開催するにあたり、新会員の加入促進を図り3人の加入があった。また、会報の発行等を通して、砂川市の情報発信についても努めた。	判断理由：会員は減少傾向ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で会員周知が進まなかったこともあり、普通と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5：会員数が減少しているため、特に現役世代の会員数増加を図る取り組みを行う必要がある。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：企業訪問数	指標の求め方：訪問企業の数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：誘致・事業拡大した企業数	指標の求め方：誘致・事業拡大した企業数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/社)	計画値	10	10	10		10	10	10		10	10	10	10		
		実績値	0	21	30											
指標	成果指標 1 (単位/社)	計画値	1	1	1		1	1	1		1	1	1	1		
		実績値	1	0	0											
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					良好である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：新型コロナウイルス感染症の影響で、市外企業訪問を行うことができず、活動実績はないが、企業立地意向調査への回答企業に対し、砂川市をPRするメールを送付するなどの活動をおこなった。	自己分析：誘致・事業拡大した企業はなかったものの、継続して企業訪問を行う必要がある。	自己分析：今年度は既存企業の工場増設に伴う施設建設補助をおこなったことから、企業振興が図られたものとする。今後も継続して企業訪問を行い、情報収集に努めていく。	判断理由：活動指標は達成されているが、成果指標が達成できなかった。定期的な企業訪問を続けることが重要であると考え、良好であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5：企業の動向やニーズを把握し適切な情報を提供することで、企業誘致や事業拡大の支援や促進を図る。				R8：				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：チーム参加事業者数 (R5まで)	指標の求め方：チーム参加事業者数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：地域ブランドの商品数 (R5まで)	指標の求め方：展示会等への出展した商品、本事業で開発した商品の数
活動指標 2	指標名：事業担当協力隊員数 (R6から)	指標の求め方：事業担当協力隊員数
成果指標 2	指標名：一般社団法人オアリアバ会員事業者数 (R6から)	指標の求め方：一般社団法人オアリアバ会員事業者数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/者)	計画値 41	51	59		67	75	80		85	90	95	100		
		実績値 40	47	50											
	成果指標 1 (単位/品)	計画値 30	35	40		45	50								
		実績値 29	29	31											
	活動指標 2 (単位/人)	計画値 2				2	3	3		3	3	3	3		
成果指標 2 (単位/者)	計画値 67				67	75	80		85	90	95	100			
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				あまり上がっていない										
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 参加事業者数及び商品数ともに増加している。継続的にセミナー、会議等を実施し人材育成を図っており、販売会、新商品開発等を実施、SNSにて情報発信を行い、インキュベーション・地域商社・DMOの機能を持つ組織の設立機運の醸成を図っている。	自己分析： 一般社団法人オアリアバが設立され、認知度が向上し参加事業者数は増えているものの、活動指標は計画値を下回っている。また、展示会等への出展や新商品開発には至らなかったが、開発中の商品もあることから、事業者同士の連携を促していく。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値を下回ったものの、一般社団法人オアリアバの認知度が向上し、参加事業者数は増加し続けており、新商品の開発も行っていることから、継続して地域おこし協力隊の活動をとおして、地域ブランドの定着推進を行っていく必要がある。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成していないが、開発中の商品があり、年々参加の事業者数も増加していることから、普通であると判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 令和4年8月に一般社団法人オアリアバが設立され地域ブランド構築事業が終了したが、地域ブランドの定着のためには継続した支援が必要である。地域おこし協力隊による事業者間の結びつけなどを行っているが、一般社団法人オアリアバの継続した活動・地域ブランド定着を促すため、現状のまま継続することとしたい。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：農商工連携促進助成金助成額	指標の求め方：農商工連携促進助成金助成額
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：異業種連携取り組み数	指標の求め方：異業種間における連携事業の取り組みが実現した延べ件数

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 200	200	200		200	200	200		200	200	200	200		
		実績値 0	0	0											
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値 2	2	2		2	2	2		2	2	2	2		
		実績値 0	0	0											
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっていない										
	総合評価				問題がある										
	評価内容	自己分析： 連携者側による 申請がなかった ため実績がな かった。 総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関する 自己分析	自己分析： 連携者側による 申請がなかった ため実績がな かった。	自己分析： 連携者側による 申請がなかった ため実績がな かった。	判断理由： 申請がなかった ため、活動指 標・成果指標と もに計画値を達 成できなかった。 申請の有無 は事業者の計画 次第ではある が、改めて事業 の周知を行う必 要があることから 問題があると 判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
	今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 令和元年度以降実績がない状況であるが、新商品開発や異業種連携を促すためには必要な事業である。また、地域ブランド定着推進事業でも新商品開発の支援を行なうこととしていることから、現状のまま継続することとしたい。				R8：				R10：					